

アメリカの医療・病院経営史：医療・病院経営学部 (MHA: Master of Health Administration) の誕生に至る背景 ⑦諸外国の医療・病院経営の教育 5/14/2018

前回までのあらすじ: 前は、ファーラーマン博士談話の中に出てくる尼僧と元軍人の衛生兵 (medic) がアメリカの病院経営に関わった理由を書いた。それでは、第二次世界大戦後、アメリカ以外の西洋諸国の病院経営教育はどうなっていたのだろうか。

～ファイラーマン博士談～

それでは、当時の諸外国の病院経営の実情についてお話ししましょう。イギリス政府も病院のマネジメントと医療の質に関心を示していました。多くの病院は戦争(第二次世界大戦)で破壊されていたので、病院の再建をしていました。イギリスは病院のマネジメントの問題点を究明・研究する委員会を設立しました。その委員会は、1948年に設立された政府機関であるナショナル・ヘルス・サービスが病院経営の正式なトレーニングプログラムを運営することを提案し、イギリス政府もそれに賛成したのです。つまり政府がそのプログラムを作ったこととなります。この時期、偶然にも病院のマネジメント教育プログラムは、イギリス、アメリカ、カナダで同時に進行していたのです。つまり、イギリスは政府主導型、アメリカとカナダは、ケロッグ財団の後押しで進んでいました。

1950年代ケロッグ財団は、南アメリカ諸国にも進出し、病院経営学修士課程の向上のために北アメリカと南アメリカの大学が一緒になって、意見交換ができるように補助金を出しました。例えば、ブラジル大学(University of Brazil) はコロンビア大学、チリ大学(University of Chile) はミネソタ大学、ベネズエラ大学(University of Venezuela) は、カンザス州のミズーリー大学と組んでお互いの修士課程の教授陣が1年間相手の大学に赴任したり、南アメリカの学生は、北アメリカで修士号を取得した後、母校に戻って教員になるなどが挙げられます。ケロッグ財団は、西半球で医療経営を専門的な職業にするためにとても積極的にサポートしました。

[アメリカの医療・病院経営学部の誕生に至る背景、連載はこちら](#)

この連載の詳細は、[著書](#)をご参照ください。)

連絡先: ihealthcareworld@yahoo.com

[HPに戻る](#)、[オバマケアを含めた医療保険のページ](#)、[メディケア（シニア）の保険のページ](#)、[医療全般のページ](#)、[教育制度のページ](#)、[主婦・主夫という職業のページ](#)、[面白い雑学と歴史のページ](#)

●著書：

① [病院の内側から見たアメリカの医療システム](#)：アメリカの病院の勤務経験を生かし、病院の内側からアメリカの医療を書いた本

② [病院の外側から見たアメリカの医療システム](#)：コンシューマーの立場からアメリカの医療を書いた本

●共著：[医療改革と総合ヘルスケアネットワーク](#)：東洋経済新報社 共著：松山幸弘：アメリカの統合ヘルスケアネットワークのしくみについて解説

Copyright © 2017 Keiko Kono All Rights Reserved. 本文の全部、一部を著者の許可なく無断で複写、複製、改変、引用、転載、目的外使用することはできません。連絡先: ihealthcareworld@yahoo.com

-尚、本文は情報提供を目的とするものであり、コンサルテーションやアドバイスを目的としたものではありません。本文に出てくる特定の組織や団体を endorse するものではありません。

Copyright © 2017 Keiko Kono All Rights Reserved. 本文の全部、一部を著者の許可なく無断で複写、複製、改変、引用、転載、目的外使用することはできません。連絡先: ihealthcareworld@yahoo.com

-尚、本文は情報提供を目的とするものであり、コンサルテーションやアドバイスを目的としたものではありません。本文に出てくる特定の組織や団体を endorse するものではありません。